
夢...現実

Real

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢…現実

【Nコード】

N4745D

【作者名】

Real

【あらすじ】

作者体験談ホラー系夢なのか現実なのか…分からない恐怖感

（前書き）

初投稿です。文章の間違い、書き方などにつきましては不明な点があるとは思いますがご了承下さい。

「あつ…夢？」金縛りが解けて起きた。Sは現実か夢か分からなくなつて目が覚めた。

枕元にあつた携帯電話の時計を見ると、午前2時を回つたとこだ。今、何が起きたか分からない。熱帯夜で汗がかくほど暑いのに部屋には寒気がするほど冷たい空気が、流れている気がしていた。ゆっくり頭の中で今起きた事を冷静に考えてみた。まず、突然金縛りにあつて、恐る恐る目をゆっくり開いた。そこにはSの腰の辺りでノースリーブで膝下まで位の白いワンピースのような服に裸足で細身の大體20代後半位の女性がいた。

ものすごくSの顔を覗き込むような視線があつた。Sはヤバイとすぐに感じた。Sはすぐに強く目を閉じた。「髪の毛の長い女の人…だ。死んでる！怨み？ものすげー怒ってるし…やだ！」Sは頭がパニックになっていた。

「どーしよう…」そーしてる間にも、女の顔がだんだんSの顔の前に近づいてくる。

そして、口から何か聞こえてくる。「…す。死…ね…。殺…す。何か他にも言ってるような気がしたが、聞こえない。「何？」もう訳が分からなくなっていた。

さらに女の顔はSの耳元まで近づいていた。

女の口から背筋が固まるほど冷たい息が、Sの耳元でブツブツ言っている。

何か分からないが、恐怖が通り過ぎたのか、Sの頭がおかしくなったのか、女の言っている

内容は分からないが、何かだんだん心地よくなっていた。

「何だろう…気持ちがいいな。」

そんな事を思っていると、「ドン」と耳元に何か落ちてきた。「何！？何か耳元にある」

体を横にしてみて、そつと目を開いた。真つ暗で今まで目をつぶっていたから、最初はほんやりで分からなかったが、徐々に見えてきた。

「……何だろう？　っ！足だ！しかも、足首から上がない！女の足！何、何で、何でよ！」

Sの顔の横には青白く冷たい裸足があった。

びっくりして、顔を反対側にそらした。もう気持ちが悪くなり吐き気がしてきた。

誰か助けて…

声が出ない。「あ…あ…」

このまま、向こうの世界に連れて行かれるんだなあ…

諦めつつ、頭で勝手に謝れば、何とかなるかも…

意味は無いかも知れない、そんな事を思つて、ひたすら謝った。

「ごめんなさい。ごめんなさい。」

そんな事しても意味はないとわかつているのに…誰にも聞こえないのに、声がでないのに

思いっきり謝った。「本当にごめんなさい。許して。」

「助けて下さい…。お願い…お願いします。」

それから、しん…と部屋が静かになった。

「はっ！金縛りが解けたんだ」体がやっと動く。顔だけ動かし、部屋を見渡す、誰もいない。

今の何だったのだろう。

「夢…？じゃないような…現実か？でも…」あまりにもリアルな感じだ。

そんな事を思っていたがまた、深い眠りに就いた…。

朝、起きるまでは 何事も無かった。何だったのだろうか？

女の人は…？何をしにSの所に來たのだろうか。理由は今も分からない。

でも、たまに夢に出てくる…。Sを怨んでるような冷たい目が…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4745d/>

夢...現実

2011年1月12日20時11分発行